

東京工科大学 コーオプ教育プログラムの ご案内

2015年度より工学部で実施をしているコーオプ教育を、
新たに八王子キャンパスの3学部で実施します。

University



Student



Company



東京工科大学

コーオペ教育とは

大学と企業が連携し、
学生の実践力を養成する教育プログラムです。

コーオペ教育(Cooperative Education)とは、1906年に米国シンシナティ大学工学部で「学内の授業プログラムと学外の就労体験型学修プログラムを交互に受けるカリキュラム」が開発されて以降、米国、カナダ、欧州で盛んに取り入れられている教育プログラムです。学生は、一定期間企業で働くことで就業経験と労働賃金、大学の単位を修得するとともに、実践力や総合的な社会人基礎力を身につけることができます。

東京工科大学では、工学部において2015年度から必修科目としてコーオペ教育を実施してきました。実習を終えた学生は、実習を通じて大学での学修が実社会でどのように活用されるかを理解するだけでなく、社会人としてのマナーやチームワーク、能動自律といった社会人を身につけ、さらに仕事に対するビジョンを得てキャンパスへと帰ってきます。中には、実習を一つのご縁として、実習受け入れ企業に就職する学生もいます。



コーオペ教育と インターンシップとの違い

コーオペ教育は新しい実学的な教育プログラムです。

大学等におけるインターンシップは、「学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度」であり、その形態は①正規の授業科目とする場合、②課外活動など大学における活動の一環とする場合、③学生が個人的に参加する場合に分かれます。

わが国では昨今、若者の離職率の増加や職業定着率の低下などが見受けられ、学生の主体的な職業選択や高い職業意識の育成が、重要な課題となっています。

東京工科大学のコーオペ教育プログラムでは、キャリアコーオペセンターが一元的に管理・運営を行い、企業が積極的に教育に関わる

ことで、企業ニーズが反映された産学協働実習プログラムを構築します。また、通常のインターンシップと比べて就業期間が長期間であり、就業経験の前後に体系化された事前・事後教育を実施。これらに加え、学生に対し企業の一員として賃金が支払われることが大きな違いです。

本学のコーオペ教育プログラムを通じて、学生は働くことの価値観を見出し、協働で作業する能力や責任ある主体的な行動力を習得することが可能となります。

インターンシップとコーオペ教育の違い

実習期間が長期に。

インターンシップは、一般的に短期間(1~14日間程度)で実施されます。これに対してコーオペ教育は、長期間(3週間~)にわたって就業。より実践的な業務を経験します。

事前・事後教育を取り入れた、体系化した教育プログラム。

コーオペ教育プログラムは実習前に社会人基礎力を養う事前教育を実施します。また、実習後には事後教育として就業経験の振り返りの授業を行います。コーオペ教育で得た「気づき」や「発見」を、その後の学びや就職活動に活かすことが可能です。

有給で行われる教育プログラム。

インターンシップが原則無給で行われるのに対し、コーオペ教育は企業の労働者の一員として就業するため、有給となります。

産学協働で開発された実習プログラム。

就業プログラムの内容は企業に一任することが一般的なインターンシップと異なり、コーオペ教育は産学協働教育のため、大学と企業が連携して実習プログラムを開発します。



本学のコーオペ教育プログラムが、2018年 文部科学大臣による
「大学等におけるインターンシップ表彰」において「優秀賞」を受賞しました。

学部紹介



コンピュータサイエンス学部

- AIコース
- コンピュータソフトウェアコース
- システムエンジニアリングコース
- ネットワークコース

人工知能や先進のICT(情報通信技術)を学び、新たな価値を創造する力を持ったエンジニアを育成する学部です。注目のプログラミング言語「Python」を核としたプログラミングの学修に加え、ICTを幅広く学び、社会のイノベーションにつながる実学を修得します。



メディア学部

- メディアコンテンツコース
- メディア技術コース
- メディア社会コース

メディア学の基礎となるスキルを網羅した上で3コースに分かれ、メディアコンテンツの制作・活用に関する知識・技術を修得。ソーシャルメディアから、アニメ、CG、ゲーム、ビジネス、コミュニケーションまで多様なフィールドが学べます。



応用生物学部

- 生命科学・環境コース
- 医薬品コース
- 先端食品コース
- 先端化粧品コース

生物に関する知識を工学的に応用し、環境問題や医療、人間生活の質を向上させる技術を研究する学部です。生命科学分野から環境問題、医療、食品、化粧品まで、幅広い学びのテーマに沿って学びます。

コーオペ教育スケジュール

約3週間にわたり、
各企業でコーオペ実習に取り組みます。

3学部で行うコーオペ教育プログラムは選択科目(1単位)であり、事前教育(6コマ)、約3週間の実習、事後教育(3コマ)を行います。

コーオペ実習前の「顔合わせ・情報交換会」では、企業と学生が実習前に顔合わせをすることで、実習に向けた不安を解消し、安心して実習に臨めるようにしています。



4月

5月

受入照会

6月

企業マッチング

7月

受入確定

8月

顔合わせ・情報交換会
事前教育

9月

事後教育

10月

受入照会

11月

企業マッチング

12月

受入確定

1月

2月

顔合わせ・情報交換会
事前教育

3月

事後教育

夏期コーオペ実習

春期コーオペ実習

コーオペ教育における企業側のメリット

1 労働力としての貢献

企業側の要望と学生の適性や能力を十分に考慮してマッチングを行うほか、実習プログラムの内容も大学と企業が綿密に相談して決定するため、コーオペ実習生は労働力として貢献することが期待されます。

3 産業界のニーズを教育に反映

産学連携でコーオペ実習プログラムを構築することにより、新たな産業分野の動向を踏まえた産業界のニーズを、大学教育に反映することができます。

5 安定的な人材確保へ

「売り手市場」と言われる近年の求人市場において、コーオペ実習の受入企業は自社の魅力を直接学生に伝えることができ、また大学内での認知度が上がるため、将来の安定的な人材確保につながることも考えられます。

2 職場の活性化と共同研究への発展

学生の柔軟な発想とチャレンジ精神が、職場に新たな活力をもたらすことが考えられます。また、学生が卒業論文でコーオペ実習内容をテーマとして取り入れ、大学との共同研究へと発展させることも可能です。

4 企業に対する理解の促進、魅力発信

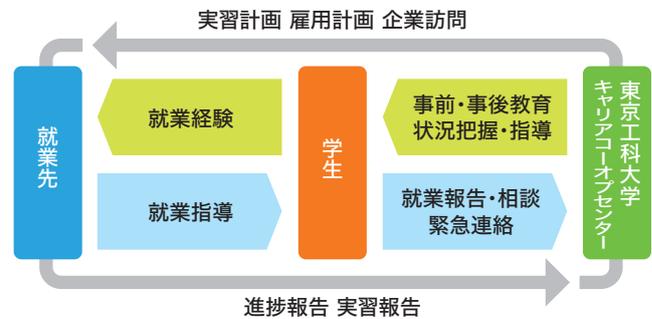
大学と企業の接点が増えることで、相互の情報発信・受信の活性化につながります。また、学生が企業のことを深く理解する貴重な機会となり、企業の魅力発信においても有益な取り組みと言えます。

6 雇用後の早期離職(ミスマッチ)の解消

コーオペ教育では、学生が給与を得てコーオペ実習を行うことにより、働くことの意義や価値観が身につくため、就職後の早期離職(ミスマッチ)を防ぐ効果があると考えられます。

東京工科大学コーオペ教育プログラムの運営体制

コーオペ教育の運営は、大学内に設置された「キャリアコーオペセンター」で一元的に行っています。同センターにはコーオペ教育担当スタッフが常駐し、企業と大学双方の意向を取り入れた実習プログラムの構築や、学生と企業とのマッチングなど、さまざまなサポートを実施。実習先で学生と企業との間にトラブルが発生した場合も、同センターが対応します。



学生受入の基本条件および契約手続き

- 待遇 時給1,413円+交通費を支給(2019年10月1日現在、地域別最低賃金改定等により変動することがあります)
- 期間 コンピュータサイエンス学部、メディア学部、応用生物学部の2年次以上
夏期コーオペ実習 夏期間(8月~9月の約3週間) / 春期コーオペ実習 春期間(2月~3月の約3週間)
- 労働時間 原則1日8時間(月~金) *学生との合意の上で休日出勤および残業も可
- 契約手続き ①コーオペ教育実習覚書
コーオペ教育にご協力いただくことを受入企業と文書で確認します。
また、本覚書によって下記契約の位置づけやご協力いただく内容を明示します。
②労働者派遣基本契約
コーオペ実習の運営は、労働基準法を遵守して実施します。
「基本契約」は、大学が学生を企業に派遣する上での基本的な内容を記載したものです。
③コーオペ実習プログラムの確認書
コーオペ実習の内容について、受入企業と本学キャリアコーオペセンターとの間で調整し、約3週間のプログラムを作成します。

東京工科大学

コンピュータサイエンス学部 メディア学部 応用生物学部 工学部

〒192-0982 東京都八王子市片倉町1404-1

■ お問い合わせ先

東京工科大学キャリアコーオペセンター Tel.042-637-2126

E-Mail tk-coopinfo@grp.teu.ac.jp

